

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月13日

### 【評価実施概要】

事業所番号	3271500344		
法人名	株式会社 アミーゴしまね		
事業所名	グループホーム 雲南・ゆりさわ		
所在地	島根県雲南市三刀屋町伊萱 40-6 (電話) 0854-45-0100		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟町43番地		
訪問調査日	平成21年9月3日	評価確定日	平成21年9月19日

### 【情報提供票より】 (H21年7月27日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 8日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤3人, 非常勤8人, 常勤換算7.55人	

#### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,340 円

#### (4) 利用者の概要(7月27日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	0名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.1歳	最低	72歳	最高	99歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	山根医院	辰村医院	平成記念病院	上代歯科
---------	------	------	--------	------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の要望を大切にしたい支援をすることを柱に置き、一人ひとりのペースを尊重したケアを行っているホームである。利用者の状態に合わせて対応方法を工夫することで、状態が改善し落ち着いて生活できるようになった人もいる。ほとんどの方が地元の方であり、家族や昔馴染みの人の訪問が多く、職員も湯茶の接待をして温かく迎えている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「自己評価の取り組み方法」「評価結果の報告」「運営推進会議の開催回数とその後のサービス向上への反映」などが課題となっていたが、一つ一つ検討され改善に向けている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員に評価票を配布し、記入してもらい、全員で意見交換してまとめた。評価の意義を理解し改善に取り組もうとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用状況、利用者の近況、行事予定の報告を行い、その後意見交換をし、出された意見を一つずつ検討している。会議に様々な立場の人が出席する事で、認知症についての理解、ホームへの理解が深まっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時に意見を聞くことに努め、出された意見はケアに活かしている。家族全体の声を運営に反映するまでにはいたっていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	文化祭などの地域行事への参加や、シルバー人材センターの人との交流、野菜の差し入れなど、地域の人との関係が深まり、交流が広がってきている。意欲的に地域との連携を図り、声をかけてもらうことが多くなってきた。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年8月に全職員で地域密着型としての内容を盛り込んだ理念に作り直し、玄関に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアカンファレンス、ミーティング、職員会議で理念の確認をし、サービスの振り返りを行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館の主催する文化祭に利用者の作品を出品して交流したり、シルバー人材センターの方が見守りやホームの掃除をして下さったり、地元の方が野菜の差し入れをして下さるなど地域に溶け込んできている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価票を全職員に配り、一人ひとりが記入し、意見交換をしてまとめた。評価の意義を理解し、様々な改善に取り組んでいるが、管理者の交代で改善が繋がらない事がある。	○	継続したサービスの提供のために、管理者の交代を最小限にとどめていただきたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、サービスの実際、行事予定を報告し、意見交換をしている。会議の内容が報告に費やされる傾向にある。	○	意見交換が行われているが、散発的なものとなっているので、議題を検討し、サービス向上に活かして頂きたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設当時からわからない事を聞いたり、困難事例を相談している。広域連合の担当者との関係が築かれ、協力的である。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の様子を写真付きで知らせている。家族の要望で全員が写っている写真の掲載は中止した。職員の異動についての報告がなされていない。	○	職員の異動、離職に関する報告も行って頂きたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が多く、面会時にはゆっくりと話を聞いている。運営推進会議には家族も出席し、話し易い雰囲気となっているが、意見を運営に反映するまでには至らない。	○	家族会の集まりには、ホーム側は席を外す時間をとるなど、意見、要望が出し易い工夫をし、さらに意見の引き出しに努めていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の交替が多く職員の離職、異動も数回ある。家族への説明が十分行われていない。	○	職員の異動や離職を抑える運営者の配慮をお願いしたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では消防署や福祉用具貸与事業所、医療関係者などからの研修を受けている。外部研修も全職員に知らせ、希望者には事業所でバックアップしている。資格取得も支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者と、職員が一日交換研修を行っている。管理者は「雲南広域連合」で他のグループホームや小規模多機能施設と意見交換や交流をしている。	○	今後開設される予定の事業所もあるので、交流を広げていただきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学をしてもらったり、家族と相談して併設しているディサービスでの交流をしながらホームに馴染んで頂いている。入居後、落ち着かない方には管理者が添い寝をして落ち着かれた事もある。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を敬うことを念頭におき接している。昔の話を聞いたり利用者の趣味・特技を活かして職員が教えてもらう場面がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者と出来るだけ会話の時間を持つようにし、話をゆっくり聞いて思いや意向を把握するよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の要望を聞き、介護計画を作成している。ケアプランは大きく目標を3つ立て、それぞれに具体的な内容をあげている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は、日々の「気付き」をサービス計画書に記入し、見直しに反映させている。毎日プランに沿ったケアができたか振り返っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療機関への付き添いは基本的には職員が行っている。外出支援など、様々な要望に対応する支援を心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と相談し、主治医との連携を図っている。殆どの方が月2回の往診がある。非常勤の看護師が週3回ホームに来る体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	初回面接で家族と終末期に向けての話合いをしている。家族もケアチームの一員である事をよく理解し、関係者が連携して看取りの体制が出来ている。職員も方針を共有している。		
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングや月1回の職員会議で言葉掛けや対応について振り返りを行っている。マニュアルに沿って個人情報の取り扱いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間、食事など利用者のペースに合わせる様にしている。散歩、知人の見舞いなど、出来るだけ本人の希望に沿うようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が行っているが、野菜の皮むきなど利用者で行う事もある。お団子作りなど、楽しんで参加されている。洗い物、テーブル拭きなどその日の状態に応じて参加されている。	○	グループホームの特性から、「利用者と職員が同じ物を食べる」という観点から食事支援を検討して頂きたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間など一人ひとりの希望や状況に応じた対応をしている。昼間の入浴を希望される方が殆どである。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、掃除の手伝い、テーブル拭きなど得意な事を活かせる場面がある。他事業所に入所された知人との関係で、「私でも役に立つ事がある」と思われた方があった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望される方が多く、殆ど毎日散歩や外出に付き添っている。理美容院に付き添うなど出来るだけ希望に沿った支援を行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	過去、一人で外出され近隣の方に知らせてもらったことがあったが、鍵をかける事の弊害を理解しており、見守りを原則としている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との合同訓練を春に実施した。秋にも予定されている。地域との合同訓練はまだ行われていない。	○	地域との合同訓練や災害時の備蓄も引き続き検討して頂きたい。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みや身体状況を把握し、粥、きざみなどの対応をしている。食事量、水分量の把握もし利用者にあわせた支援をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルの配置を工夫したりソファを置きゆったり過ごせる空間作りをしている。不快な音や光も無く、自然に囲まれた環境の中にある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでは準備した物を置かず、馴染みの物で本人の居心地良い空間を作って頂く様になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。